



目次

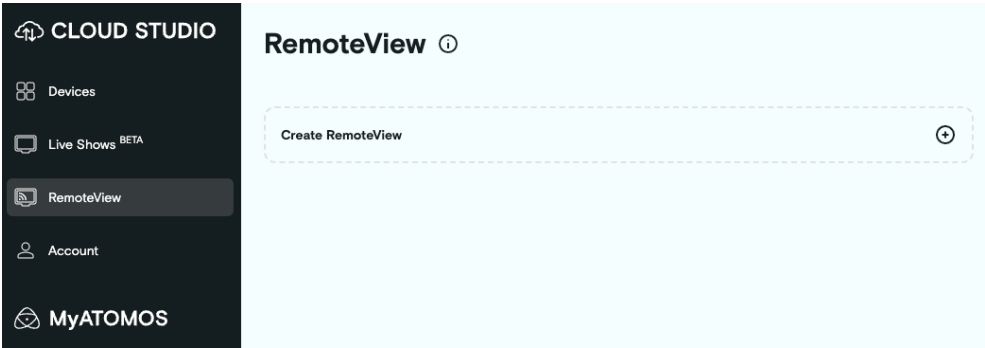
- [1. ATOMOS Cloud Studio RemoteView機能](#)
- [2. Cinemaカメラ ファイル名マッチング機能](#)
- [3. NDI 4K Tx\(送信\)機能](#)
- [4. レコードアシスト\(スケジュール録画\)機能](#)
- [5. プレイバックアシスト\(スケジュールビデオ再生\)機能](#)
- [6. フォルスカラー機能](#)
- [7. AtomOS 11 ProResRAWのアクティベーション方法](#)
- [8.SegmentPro機能操作方法](#)

1. ATOMOS Cloud Studio RemoteView機能操作説明

RemoteViewの使用方法、ATOMOS Cloud Studio（以下ACS）ウェブサイトでの設定、デバイス（特にAtomOS 11搭載デバイス）の接続について説明します。

RemoteView Showについて

RemoteViewを使用する前に、AtomosクラウドサービスのアカウントとRemoteViewに使用するクレジット(有償)が必要です。

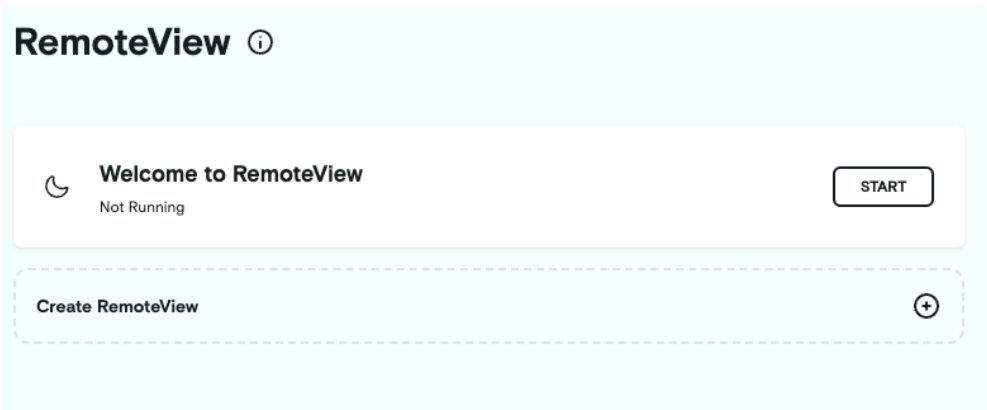


RemoteView Showの作成

左側のメニューでRemoteViewを選択し、Create RemoteViewの項目で+をタップすると、このRemoteView Showの名前を入力するよう求められます。また、必要なクレジット数と出力可能数也表示されます。準備ができれば、[CREATE]ボタンをタップして、RemoteView Showを作成します。

RemoteView Showの設定

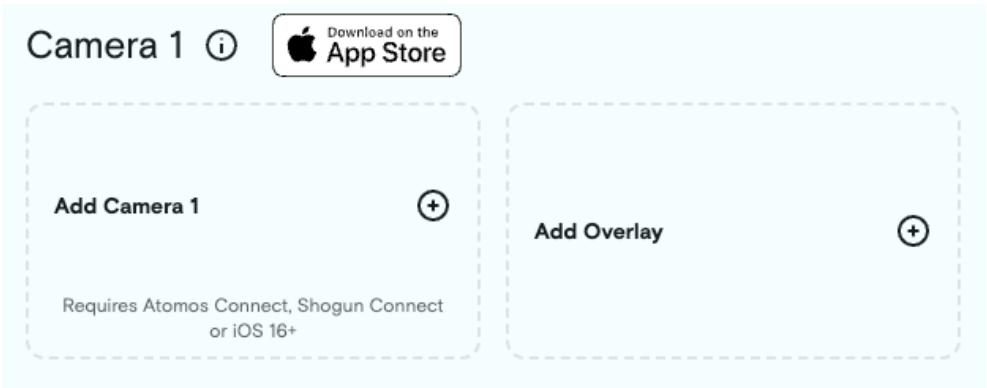
作成したRemoteView Showのをタップすると、送信先を追加したり、その他の設定を行うことができます。



開いたページには、Camera(input)、レイアウト、出力、システムの4つのタブがあります。

カメラとオーバーレイ

Cameraタブでは、RemoteViewShowにソースを追加でき、さらに、各ソースに対して、オーバーレイを追加できます。



- Add Cameraのいずれかをタップしてソースを追加し、すでに追加したソースを選択するか、[Pair Decive(デバイスのペアリング)]をタップして新しいデバイスを追加します。
- すでにShowに追加されているデバイスを選択することはできません。
- すでにShowに追加されているデバイスを使用するには、Showから削除して追加できるようにする必要があります。
- ソースを追加した後、そのソースをタップすると、ウィンドウの右端に追加の設定オプションが表示されます。
- ここでは以下のことができます：
- ソースの名前の変更
 - ソースをShowから削除する
 - ソースを別の同期グループに追加する
 - エンコーダー画質の変更
 - ネットワーク遅延の調整

オーバーレイを追加するには、[Add Overlay(オーバーレイの追加)] をタップするとダイアログが開き、すでにロードされている画像をタップしてこのカメラに配置できます。

または、Add Asset(アセット追加)をタップして、コンピュータからアップロードするファイルを選択して、新しい画像を追加することもできます。追加する際にAsset Nameから、画像に名前を付けることもできます。

Layouts (レイアウト)

4つの出力先に合わせて4つのレイアウトがあり、RemoteViewShowをどのように出力に表示するか、出力ごとに固有のレイアウトを選択できます。

以下のレイアウトは、レイアウトタイトルの右下にあるメニューから選択できます。

CamerasLayoutsOutputsSystem

Layout 1 ⓘ

Black

Black

Black

Black

Layout 1Quad▼

Layout 2 ⓘ

Camera 1

Camera 2

Camera 3

Camera 4

Layout 2Large + 3▼

Layout 3 ⓘ

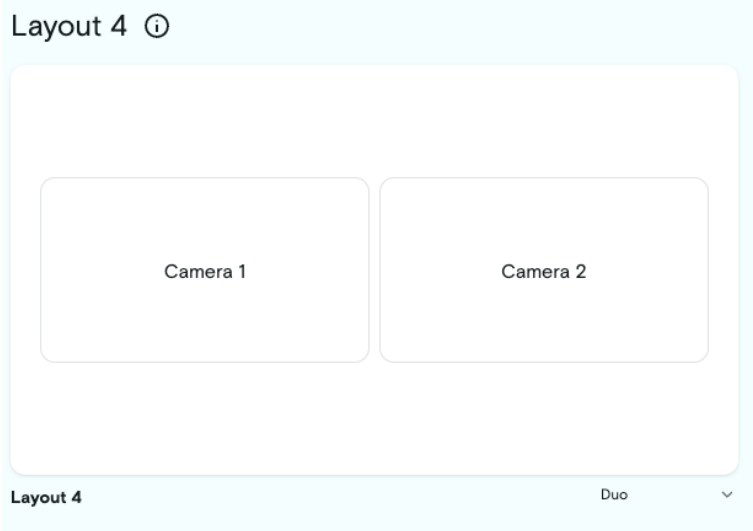
Camera 1

Camera 2

Camera 3

Layout 3Large + 2 (right)▼

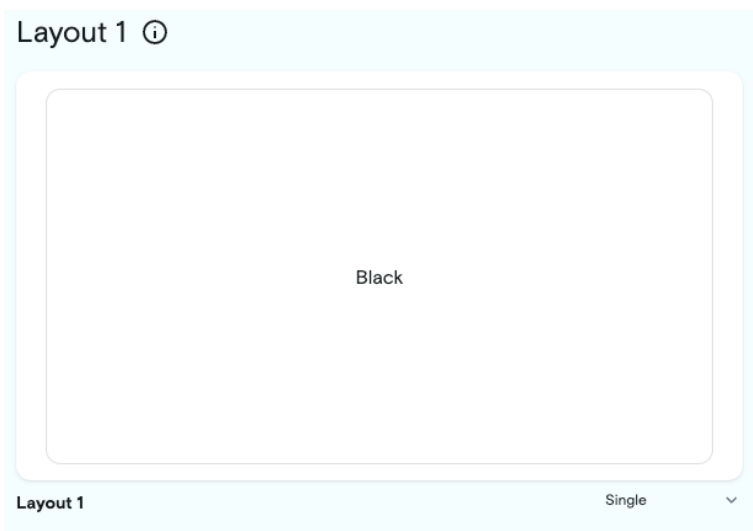
Duo



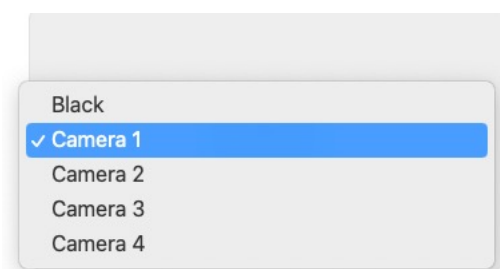
Picture in Picture (Left or Right)



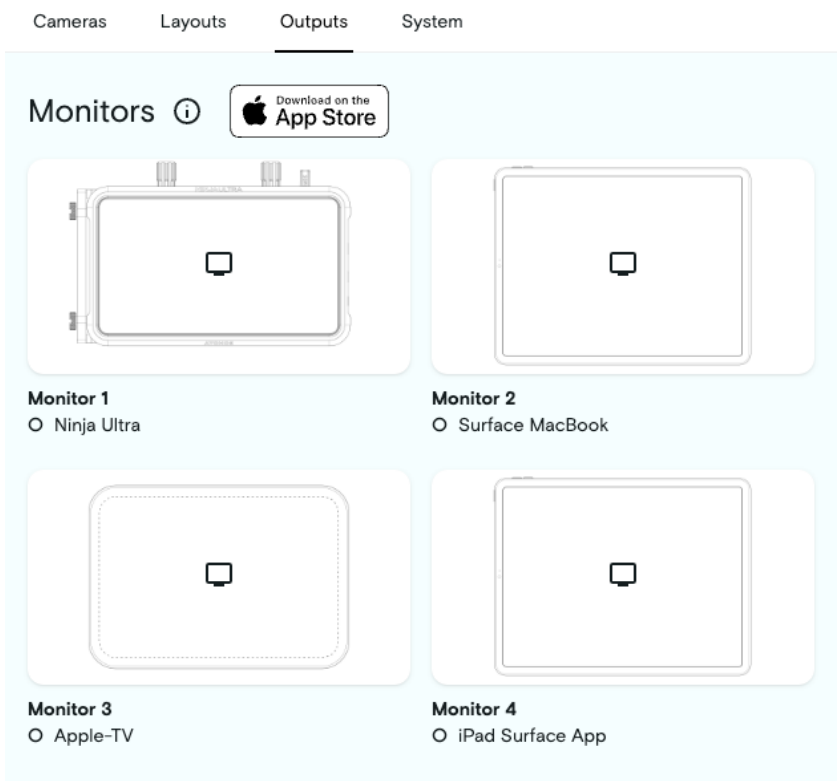
Single



各画面に表示されるソースは、タップして選択できるソースのリストから選んで表示することができます。



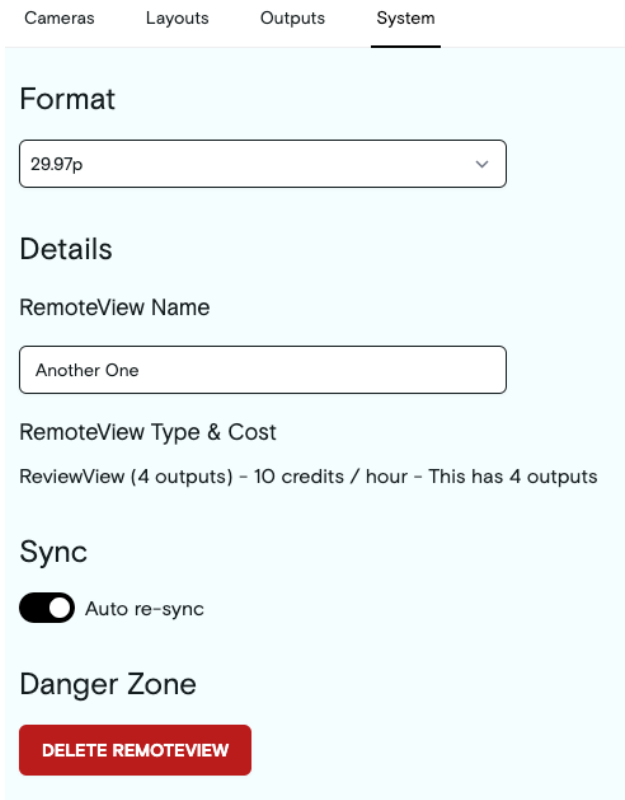
Outputs (出力)



ここでは、ソースと同様に、タイルをタップして、利用可能なデバイスのリストから送信先のデバイスを選択するか、Add Device(新しいデバイス)をペアリングします。
デバイスが追加されたら、デバイスをタップして、デバイスに使用させたいレイアウトを管理したり、エンコード設定を変更したり、オーバーレイを追加したりできます。
さらに、ネットワーク遅延を変更したり、Showからデバイスを削除することもできます。

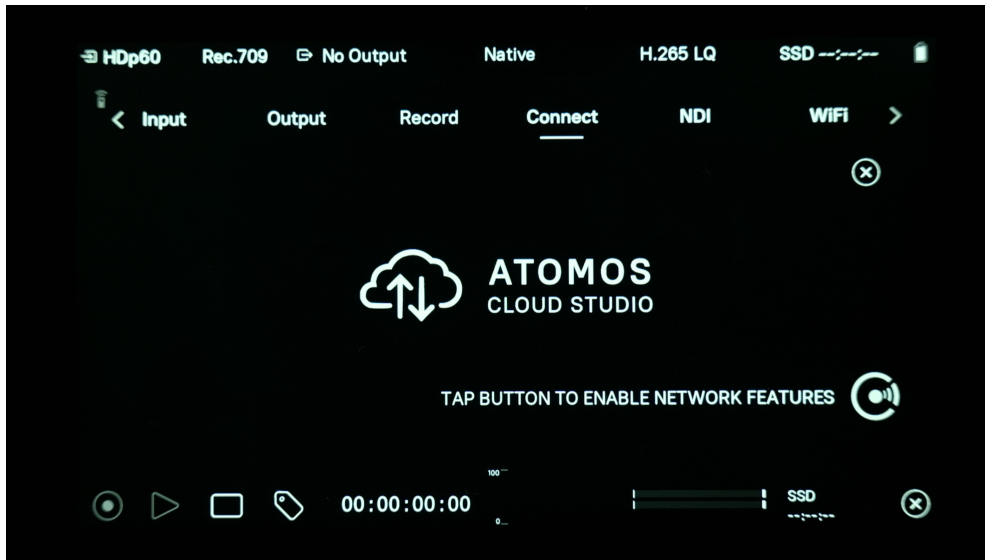
System (システム設定)

システムタブでは、Showのフレームレートを変更したり、Showの名称を変更したり、ソースの自動再同期を無効にしたり、Showの削除ができます。



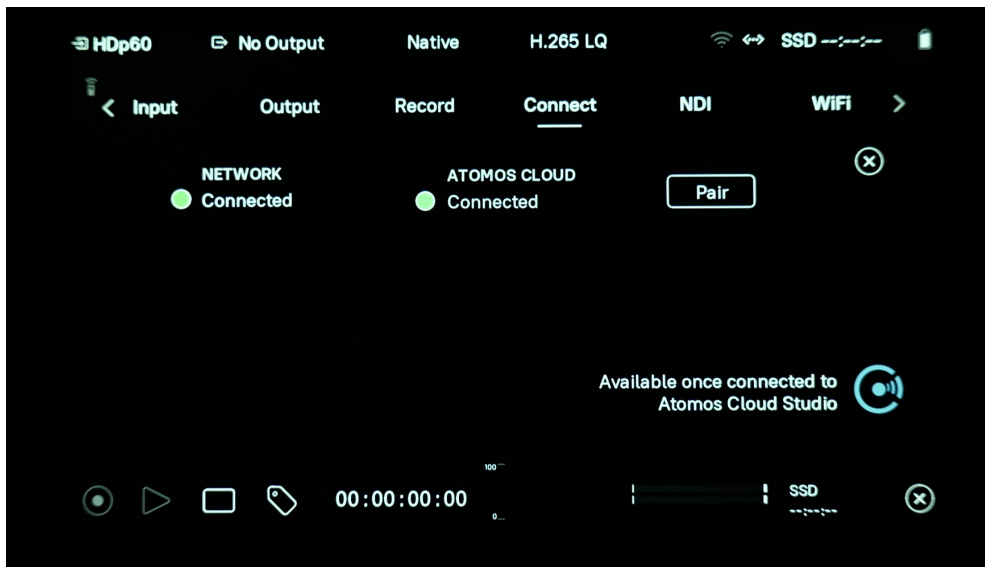
デバイスの設定方法（AtomOS 11）

「CONNECT」のメニュータブを選択し、右下の接続ボタンをタップします。

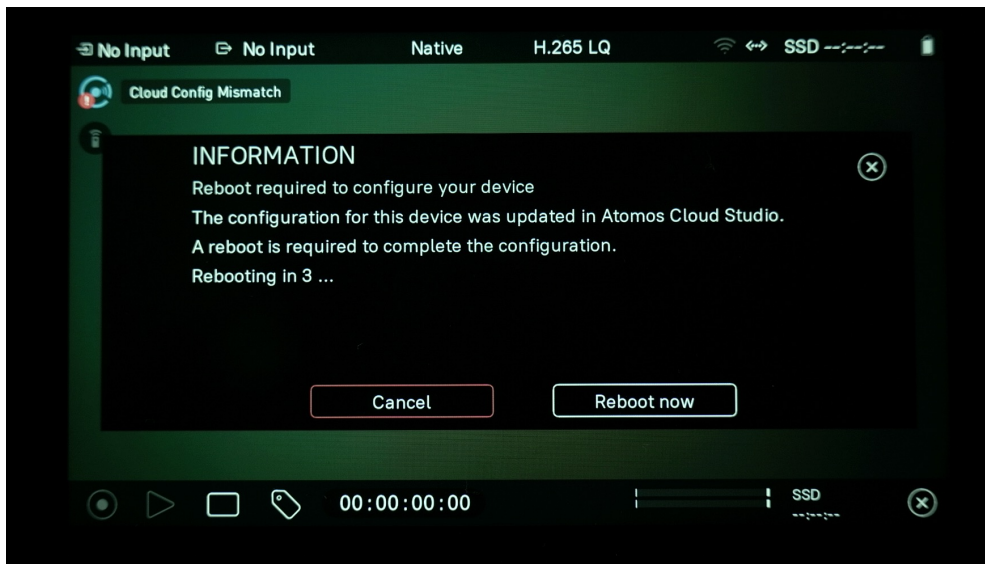


イーサネットまたはWi-Fiネットワークの設定は、[こちらのガイド](#)をご参照ください。

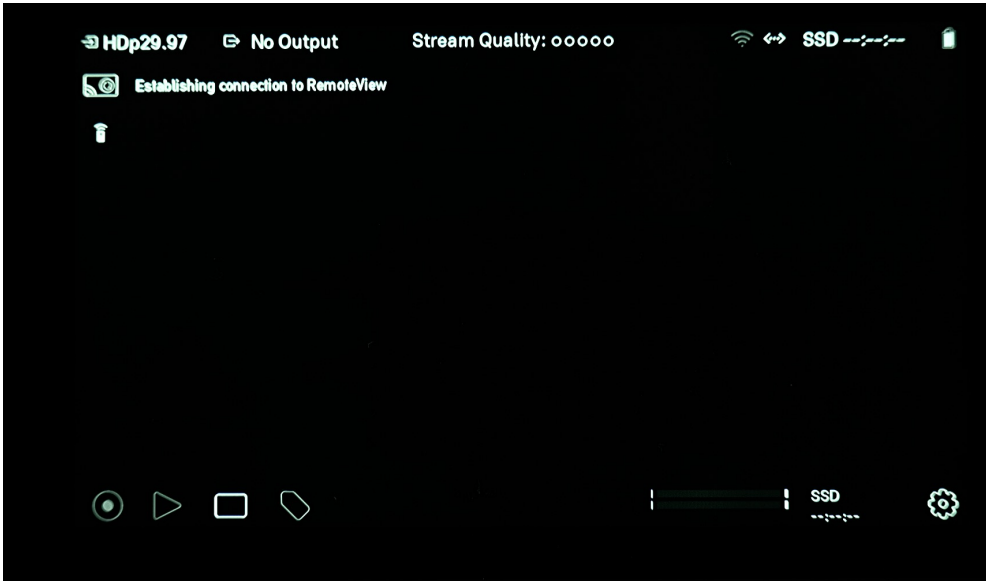
デバイスがネットワークに接続されると、下のような表示となり、Pairを押すとこのデバイスをATOMOS Cloud Studioと接続するための、3つの単語からなるペアリングIDが表示されます。



接続後にソースまたは出力先モニターとしてデバイスをShowに追加することができます。
Atomosデバイスが出力先モニターとして接続されると、以下のメッセージが表示されます。

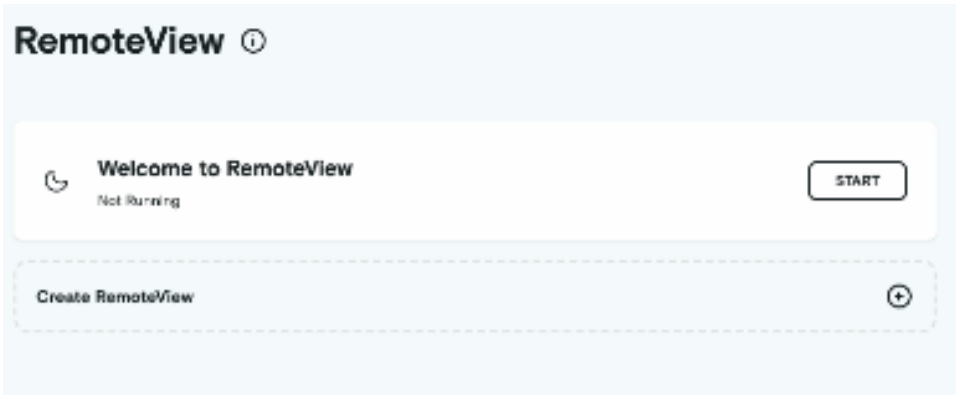


10 秒のカウントダウン後、または [Reboot Now] ボタンをタップすると、このデバイスは Atomos Cloud Studio モニターモードに移行し、左上隅でデバイスの状態を表示します。Input タブをタップすると、Atomos Cloud Studio 入力の詳細が表示されます。



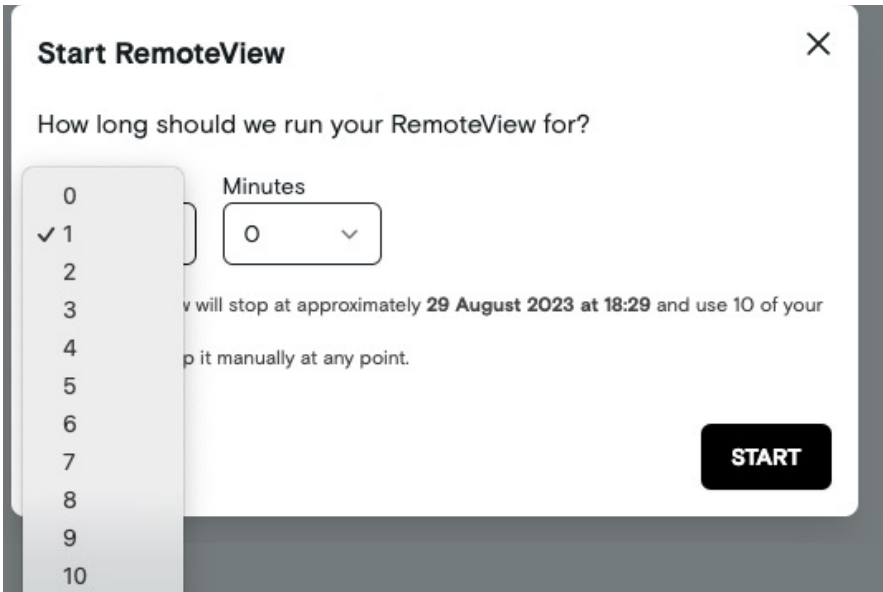
これでデバイスが接続され、RemoteView Showを開始することができます。

RemoteView Showの開始

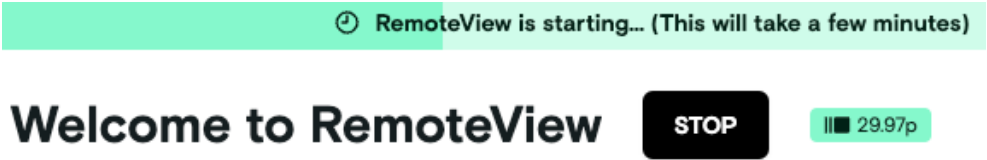


すべてのShowが表示されているRemoteViewのメインページまたは、設定を開いてSTARTをタップすると RemoteViewShowを簡単に開始することができます。

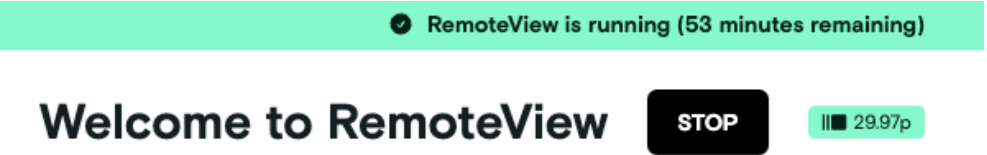
その後、Showの時間を入力するダイアログが表示されます。数分延長する必要があるときにサーバーが強制終了してしまうよりは、長めに見積もり、終了したら停止するようにすることを推奨いたします。



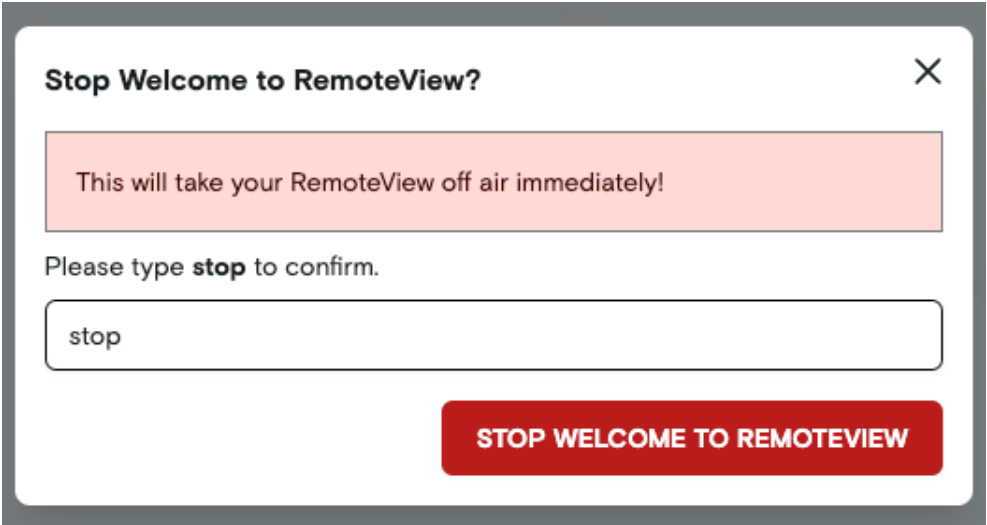
その後、STARTボタンをタップすると、Showが準備中であることが画面上部に表示されます。



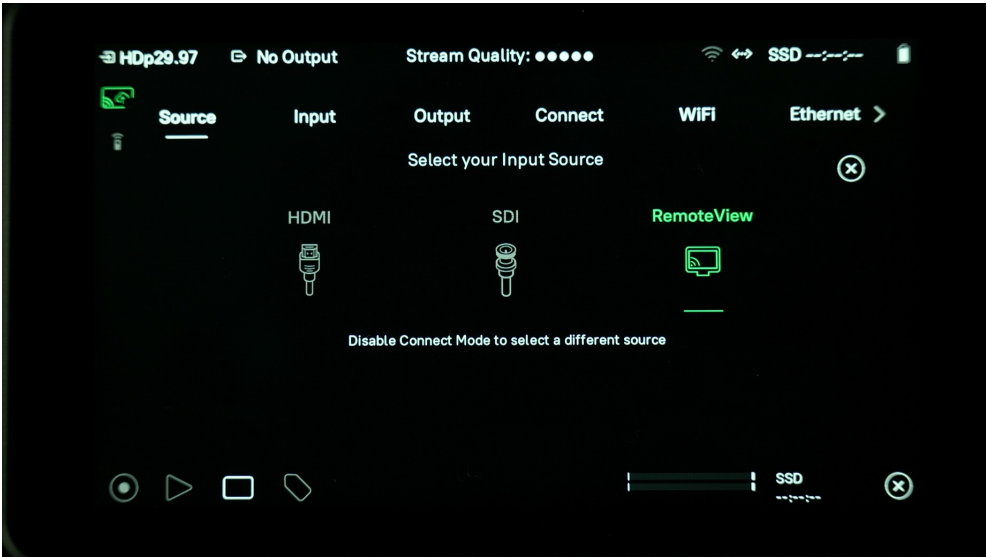
Showが開始されると、残り時間を示すメッセージが表示されます。



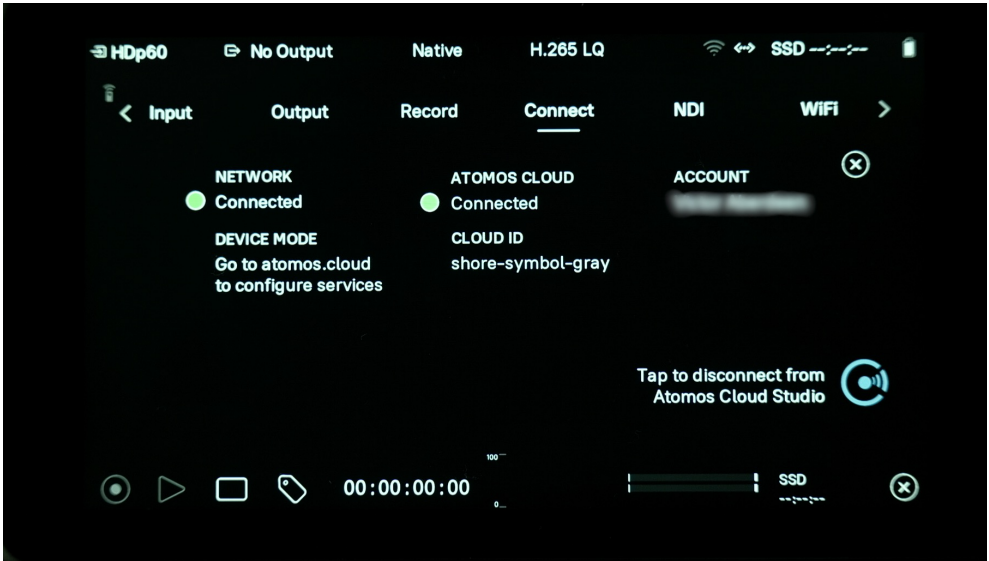
Showが終わったら、ストップボタンをタップし、図のようにボックスにstopと入力し、赤いボタンを押してShowを止めるのを忘れないでください。この操作は誤ってShowを止めないようにするためのものです。



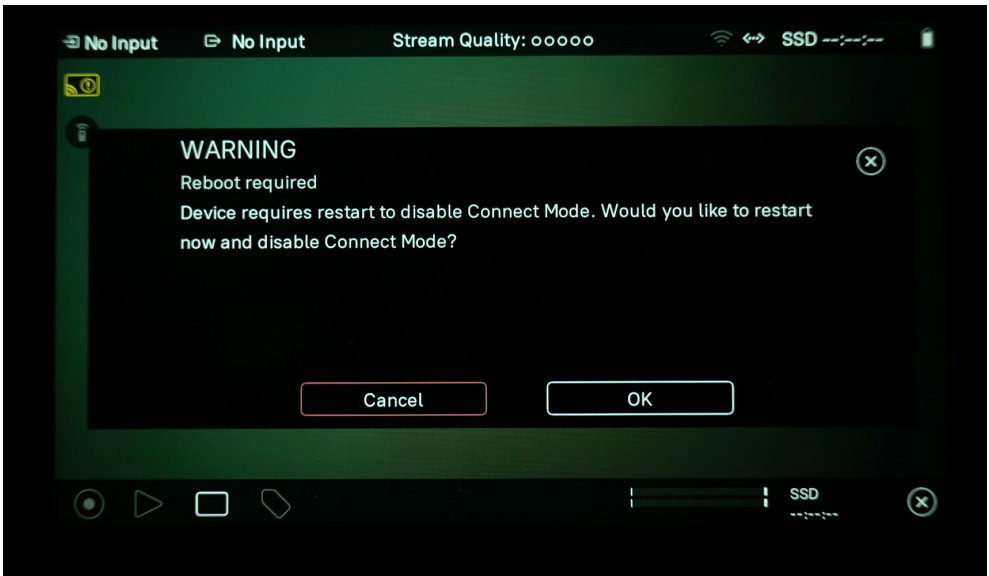
Showが終了したら、RemoteView 出力先モニターとして使用されているデバイスを停止することを忘れないでください。デバイスメニューでソースを選択し、ソースページを見ることで状態を確認することができます。



CONNECTタブをタップして接続ページを開き、右下の接続ボタンをタップして接続を解除することができます。



CONNECTモードを無効にする際、標準のモニターレコーダーモードに戻るために、再起動するよう促されます。



2. Cinemaカメラファイル名マッチング機能

Ninja Ultra搭載機能として、SDI経由でプロフェッショナルシネマカメラに接続した際にファイル名を一致させる機能を追加しました。これにより、Ninja Ultraはこれらのカメラが内部収録に使用しているのと同じファイル名スキームを使用できるようになり、外部プロキシレコーディングや高度なC2Cワークフローが、これまで以上にシームレスになります。

対応カメラ

ARRI : all cameras, including the latest Alexa 35

Canon : C300 Mark III / C500 Mark II / C700 / C700FF

RED : all cameras

Sony : Venice, Venice 2, F5, F55, F65, FX6, FX9

ファイル名マッチング設定方法

SDIシネマカメラのマッチングファイルネーミングを有効にするには2つの方法がありますが、いずれもNinja UltraのInputメニューから設定します。

1. ARRI、Canon、Sonyの対応カメラを使用している場合は、DetectオプションをAutoに設定する。
2. REDのカメラを使用する場合は、DetectオプションをREDに設定する。

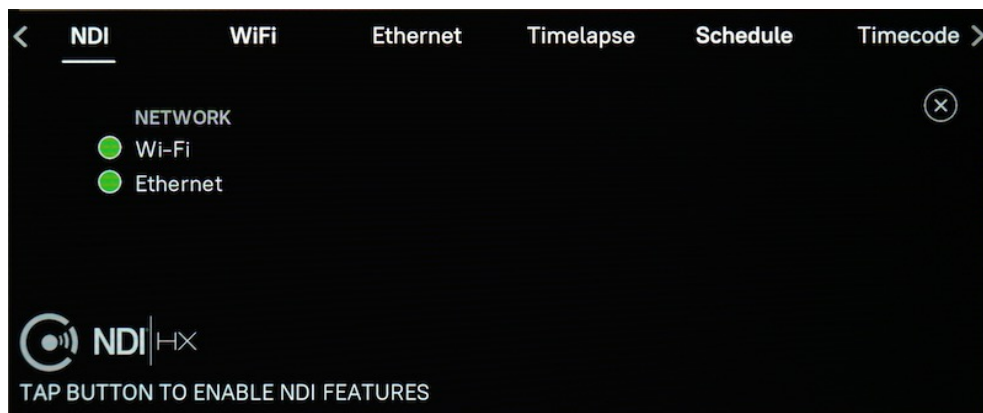
Detectオプションを設定したら、カメラをSDI経由でNinja Ultraに接続し（Atomos Connectが必要）、Fileメニューでカメラの内部ファイル命名構造が正しく検出されていることを確認します。

3. NDI 4K Tx(送信)機能

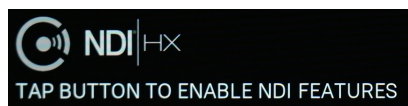


Atomos OS11 デバイスで NDI TX を使用する前に、my.atomos.com から NDI トークンを購入し、アクティベートする必要があります。

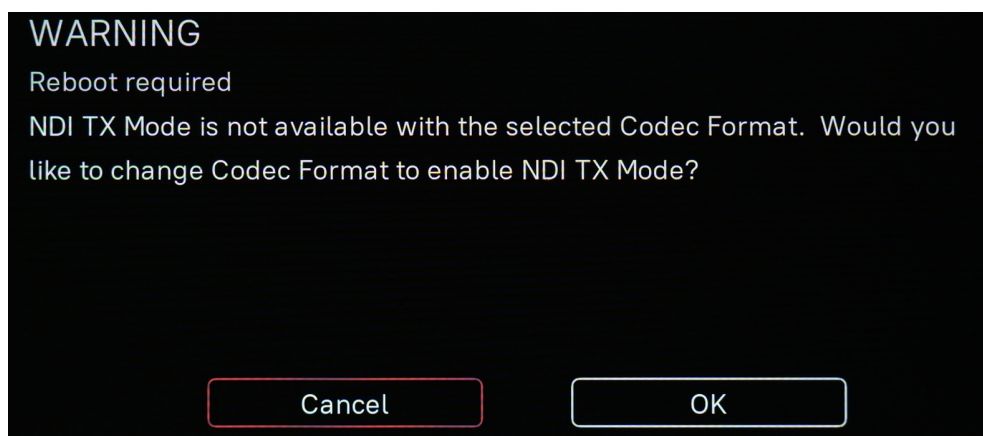
アクティベート後は、こちらの手順に従ってネットワークに接続し、NDI送信を開始してください。
プロセスはお使いのデバイスの現在の設定によって異なりますが、ここでは念のためFactory Reset工場出荷状態から始めます。



NDIタブを選択してNDIページを開くと、ネットワークが機能しているか確認することができます。
NDIを使用するためにイーサネットまたはWi-Fiネットワークに接続する必要があります ([接続方法はこちらをご覧ください](#))。

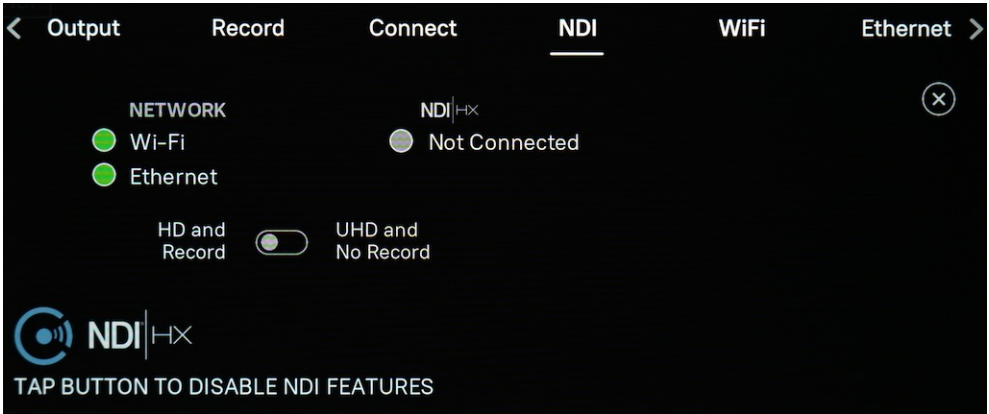


ネットワークが接続している状態で、左下にある「NDI接続」ボタンをタップします。



上図のようにデバイスを正しいコーデックにするため再起動する必要がありますというメッセージが表示される場合があります。
OKをタップし再起動が完了したら、再びNDIページを選択してください。

このように表示され、まだNDI送り先に接続していない場合、NDIステータスは「Not Connected(未接続)」となります。



HDと録画、またはUHDと録画なしの選択をします。(Ultraのみ)

このスイッチにより、NDI信号をHD解像度で伝送したり、接続しているSSDに映像を録画したりすることができます。



また、UHD 4Kを伝送する場合、同じデバイスで伝送を録画することはできません。映像を録画する必要がある場合は、4K録画が可能な別のAtomosデバイスを接続してください。

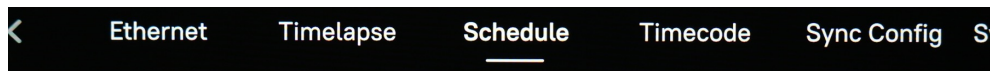
右上の (x) をタップしてメニューページを終了します。



NDIボタン、左から：非アクティブ、待機中、接続中、送出中

NDI伝送をライブで行うには、画面右上のNDIボタンをタップします。ボタンが黄色になると、デバイスが接続を検索中であることを示し、信号を受信すると赤くなります。赤の時にボタンをタップすると送信を停止します。

4. レコードアシスト(スケジュール録画)機能



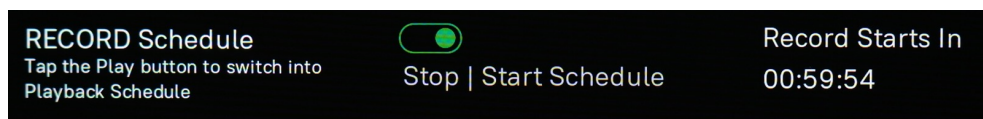
このScheduleメニューページでは、今後24時間以内に1回の録画を予約することができます。イベントなど特定の時間に録画を開始したい時に最適です。例えば、アクセスしにくいアングルからのスポーツイベントや夜間の野生動物の撮影、セレモニーのシーンなどが挙げられます。

スケジュールを設定する前に、カメラまたはソースをデバイスに接続し、スケジュール録画に十分な容量のSSDを接続する必要があります。Atomosデバイスとカメラには、録画をするための十分な電力供給が必要です。

タイムゾーンと時間が正しく設定されていることを確認してください。

Stop | STARTスケジュール設定

このスイッチは、以下の設定でスケジュールを起動または開始します。スイッチをオンにすると、デバイスは設定した時間で録画を開始する準備をします。

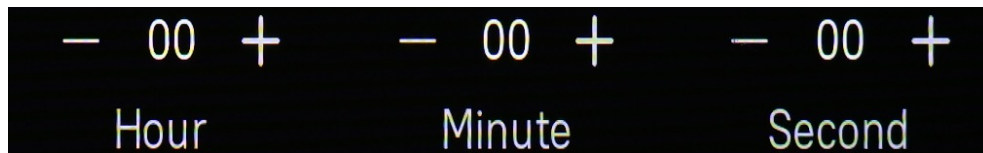


スケジュールを有効にすると、メニューページに録画開始までのカウントダウンメッセージが表示されます。録画が開始されると、このメッセージは録画終了までの時間を表示に変わります。メニューが表示されていない場合、アイコンはスケジュールがアクティブで、待機中または録画中であることを示します。録画が正常に終了すると、このアイコン表示が変わります。

スケジュール設定方法

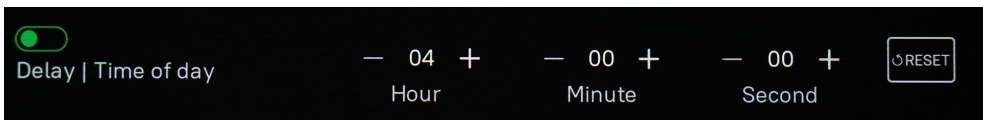
スケジュールを実行するために以下の2つの設定を入力する必要があります

1. 録画遅延設定または録画開始時間設定
2. SSD容量最大収録設定または収録時間設定



時間の値を調整するには、+をタップして値を大きくし、-をタップして値を小さくします。55秒から5秒にするには、+を10回タップすれば可能です。

1. 録画遅延設定または録画開始時間設定

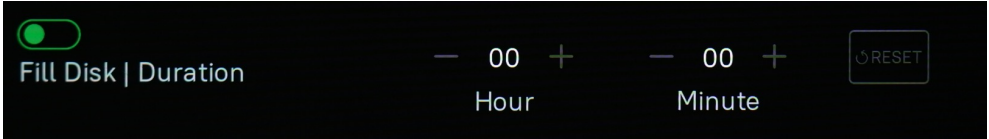


このスイッチでは、録画を開始する時間帯を設定するか、録画開始前にデバイスが待機する時間を設定するかを選択できます。

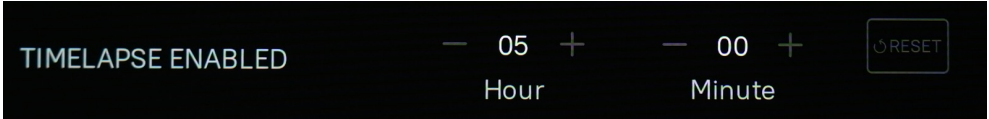
待機時間を選択し、スケジュールを有効にすると、デバイスはその待機時間終了後に録画を開始します。しかし、スケジュールを有効にする前に、Time-of-Dayに切り替えると、デバイスは現在時刻に待機時間を加えた時刻に録画開始時刻を設定します。どのタイプの遅延を設定するかを決めて、予めその設定にしておくことをお勧めいたします。

時間、分、秒単位で設定できます。リセットボタンを押すと、遅延時間の値はゼロにリセットされ、Time of Dayはデバイスの現在時刻にリセットされます。

2. SSD容量最大収録設定または収録時間設定



このスイッチは、録画時間を何時間何分に設定するか、またはSSDの空き容量がなくなるまで録画を続けるかを設定します。



タイムラプスモードで録画するようにデバイスを設定している場合、このオプションは無効になり、持続時間はタイムラプスのページで設定します。

注意

スケジュールは一度設定されると、何も変化がない限り計画通りに実行されます。
そのため、停電や入力信号が途切れたり、SSDが取り外されたりすると、スケジュールは失敗します。

スケジュール実行中は、画像の焼き付きを防ぎ、発熱を抑えるため、デバイスの画面を最低輝度に設定することをお勧めします。

5. プレイバックアシスト(スケジュールビデオ再生)機能

Video Format

Output

Schedule

Sync Config

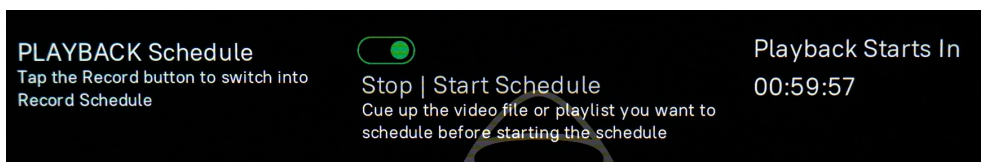
Sync Network

このメニューページでは、1秒～24時間後に単一のビデオまたはプレイリストの再生をスケジュールすることができます。スケジュールを設定する前に、スケジュールを設定するビデオまたはプレイリストをSSDにインストールし、再生できる状態にしておく必要があります。

スケジュールを設定してから再生が終了するまでの時間を考慮して、再生を完了するのに十分な電力が必要です。

タイムゾーンと時刻の両方が正しく設定されていることを確認してください。

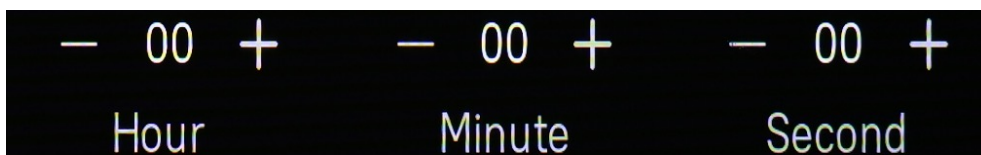
Stop | STARTスケジュール設定



ビデオファイルまたはプレイリストをロード/キューアップし、開始したいポイントで一時停止し、スケジュールメニューを開き、スケジュールを設定し、スイッチをタップしてスケジュールを開始します。スケジュールを有効にすると、メニューページに再生開始までのカウントダウンメッセージが表示されます。また、メインディスプレイ上では、スケジュールがカウントダウンしていることを示すアイコンが点滅します。再生が開始され、スケジュールが正常に遅延開始を完了すると、このアイコンは消えます。

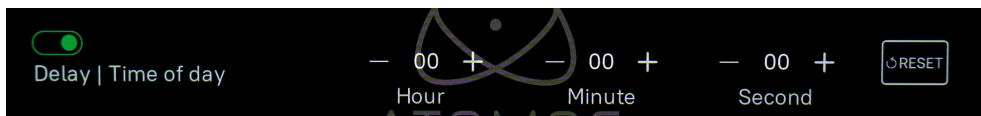
スケジュール設定方法

スケジュールを設定するには、スイッチを使い、現在からの遅延時間か、スケジュールを開始したい時間帯を選択します。



時間の値を調整するには、+をタップして値を大きくし、-をタップして値を小さくします。55秒から5秒にするには、+を10回タップすれば可能です。

再生遅延設定または再生開始時間設定

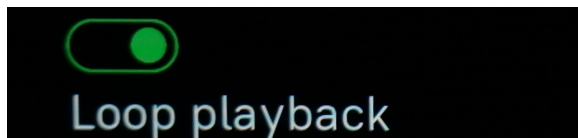


このスイッチでは、再生開始の時間を設定するか、再生を開始するまでの待機時間を設定するかを選択できます。

遅延時間を選択し、スケジュールを有効にすると、デバイスはその遅延時間終了後に再生を開始します。しかし、スケジュールを有効にする前に、Time-of-Dayに切り替えると、デバイスは再生開始時間を現在の時間に遅延時間を加えた時刻に再生開始を設定します。どのタイプの遅延を設定するかを決め、予めその設定にしておくことをお勧めします。

リセットボタンを押すと、遅延時間の値はゼロにリセットされ、Time of Dayはデバイスの現在時刻にリセットされます。

ループ再生



ループスイッチをオンにすると、ビデオやプレイリストをループさせて連続的に繰り返し再生することができます。

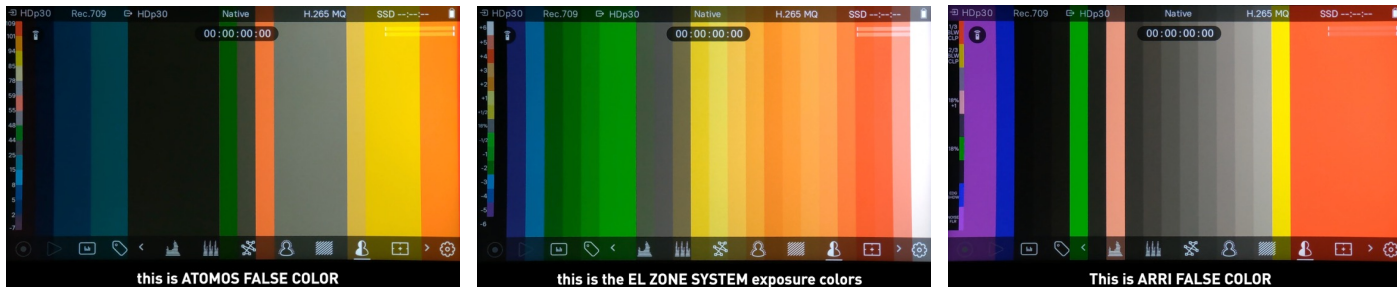
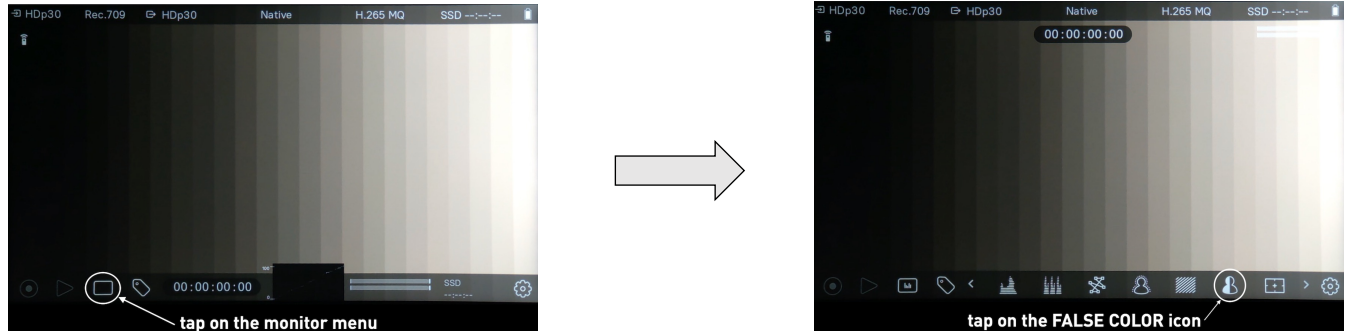
注意

スケジュールは一度設定されると、何も変化がない限り計画通りに実行されます。停電やSSDが取り外されたりすると、スケジュールは失敗します。

スケジュール実行中は、画像の焼き付きを防ぎ、発熱を抑えるため、デバイスの画面を最低輝度に設定することをお勧めします。

6. フォルスカラー機能

この機能は、画像上の色の輪郭部分として表示される異なる露光レベルの色を使用して、画面上に露光レベルを表示します。この機能は、波形を読み取るよりも、画面に表示された映像の露出を評価する最も簡単な方法です。入力信号がある場合、下図のようにモニターアイコンをタップし、モニターオプションを左にスクロールして False Colorアイコンを選択することで、Colorized Exposure / False Colorを有効にすることができます。



フォルスカラーの3つのフォーマット

ATOMOSフォルスカラー：IREスケールに基づいた色階調で画像を表示します。これにより、同じスケールを使用して波形モニターに表示された信号と画像を簡単に比較できます。

EL ZONE SYSTEM：Fストップを使用したカメラの露出に基づいた色階調で画像を表示します。アンセル・アダムスのゾーンシステムをベースにしており、露出を確認するのに最適な方法です。詳しくはこちら：[ELゾーンシステム](<https://www.elzonesystem.com/>)/TM

ARRI フォルスカラー：使用可能な露出範囲の中間と端を示す色のグラデーションによる最小限のアプローチで表示します。

ELゾーンシステムとARRIフォールスカラーは、いずれもLogまたはRAWカメラ信号でのみ使用可能です。

ATOMOS、EL ZONE SYSTM、ARRIのいずれかを選択するには、ギアのアイコンをタップしてシェルフメニューを表示し、メニューでフォルスカラーフォーマットを選択します。歯車アイコンが表示されていた場所で(X)をタップすると、メニューは非表示になります。

重要

False Colorが画面に表示されている間はLUTを無効にし、入力がRAWフォーマットの場合、False Colorはカメラの通常のLOGに基づきます。

フォールスカラーを使用する前の注意点として、まず自分のカメラでどのように動作するかを確認してください。ほとんどのカメラでは、露出またはフォールスカラーが露出の正確なガイドとなります。しかし、画像をキャプチャするセンサーとファイルの間には、この出力に影響を与え、不正確な表示をする可能性があります。

例えば、Atomosはカメラセンサーのダイナミックレンジの詳細を把握していないため、露出オーバーまたはアンダーに見えるものがクリップされている可能性があります。また、カメラの出力に、偽の色や偽の結果を与える波形につながる変換やLUTを使用している場合、これらも表示に不具合を生じる可能性があります。

7. AtomOS 11 ProResRAWのアクティベーション方法

AtomOS 11の機能アクティベーション方法はほとんど変わりませんが、ProRes RAWのアクティベーション方法が異なります。ProRes RAWのロックを無料で解除するために必要な固有のRAW IDを生成するオプションを実装しました。一般的な機能のアクティベーションに関する詳しい説明は、こちらをご覧ください：

<https://support.atomos.com/hc/en-us/articles/4514756643983-My-Atomos-Feature-Codec-Activation-Guide>

必要なもの

1. Ninja or Ninja Ultra
2. RAW出力可能な対応カメラ
3. HDMIケーブルまたは、SDIケーブル（SDIの場合ATOMOS CONNECTが必要）
4. PCまたはスマートフォン
5. SSDとSSDリーダー

RAW IDの生成

1. [atomos.com/product-support](https://support.atomos.com/product-support) から最新バージョンの AtomOS をダウンロードしてインストールします。
2. AtomOS 11 デバイスの電源を入れ、Activation タブに移動します。
3. そこで RAW ID の下にある「Go To RAW」 ボタンを押します。デバイスがProRes RAWモードに再起動します。
4. 再起動後、上部のメニューバーに「ProRes RAW HQ」というラベルが表示されます。
5. カメラの電源を入れ、RAW出力を有効にし、カメラをデバイスに接続します。
6. デバイスが初めてRAW入力を検出すると、固有のRAW IDが生成されます。
7. アクティベーションが成功したかを確認するには、再度アクティベーションタブに移動し、RAW ID を表示します。

RAW IDを生成した後すること

アクティベーションを行うには、まずmy.atomos.comに製品を登録する必要があります。これは、スマートフォン、またはコンピューターから行うことができます。アクティベーションメニューに表示されるQRコードには、ほとんどの関連製品情報が保存されているため、スマートフォンからの製品登録が楽です。コンピューターを使用する場合は、製品情報を手動で入力する必要があります。

スマートフォンを使用した製品登録方法

1. お使いのスマートフォンでQRコードをスキャンすると、my.atomos.comのリンクに飛びます。
2. 既存のアカウントにログインするか、新しいアカウントを作成します。
3. ログインすると、登録フォームが自動的にポップアップ表示されます。Device ID、Device AID、RAW IDには、あなたのデバイスの固有IDがあらかじめ入力されています。これらはQRコードに保存されているものです。
4. デバイスのシリアル番号(S/N)を入力します。製品箱または、デバイスのバッテリースロットに貼られているステッカーを確認することで確認できます。
5. その後、残りの情報をフォームに入力し、登録を完了します。

PCを使用した製品登録方法

1. ウェブブラウザでmy.atomos.comを開きます。
2. 既存のアカウントにログインするか、新しいアカウントを作成します。
3. ログインしたら、サイドバーから「My Devices」セクションに移動します。
4. デバイス登録を押すと、空白の製品登録フォームが表示されます。
5. 製品を選択し、製品のシリアル番号、購入日、購入した再販業者を入力します。
6. 次に、関連するすべてのIDを入力します。デバイス内でIDを見つけることができます：
 1. Device ID (DID)を確認するには、タイムコードディスプレイをタッチし、[Info]タブに移動します。そこにデバイスIDが表示されます。0とO、またはIと1で正しい数字を確認し、入力してください。
 2. アクティベーションID (AID)を確認するには、メニューの[Activation]タブに移動します。AIDはここに表示されます。入力は大文字と小文字を区別しますので、画面に表示されたとおりのコードを正確に入力し、0とO、Iと1をチェックするように注意してください。
 3. 同様に、RAW ID (RID) もアクティベーション・メニューに表示されます。
7. 3つのIDが登録フォームに入力されたら、それを送信して登録が完了します。

Prores RAWとその他の機能のアクティベーション方法

1. 登録が完了したら、リストからお使いのデバイスを選択してください。以前に入力したIDやその他の情報が表示された詳細ページが開きます。
2. 上部にはデバイスのオプション/有料機能がありますが、その下にコーデックのセクションがあります。
3. コーデックセクションでは、デバイスでアクティベートしたいコーデックを選択できます。
注：実際に使用するコーデックのみをアクティベートしていただければ幸いです。
4. ProRes RAWとその他のコーデックをアクティベートしたら、上にスクロールして「Download Token」ボタンを押してください。
5. Activation.binファイルが生成されるので、そのファイルをSSDのROOTディレクトリに置きます。
注：Activation.binファイルをフォルダに入れしないでください。また、コンピュータのオペレーティングシステムが自動的にファイル名に1などの文字を追加しないようにしてください。
6. SSD をコンピュータのオペレーティングシステムのガイドラインに従って取り出してください。
7. デバイスの電源を入れ、Activation.bin ファイルのある SSD をドライブスロットに挿入します。
8. デバイスはアクティベーショントークンを検出したことを示し、自動的にアクティベーションメニューページを開きます。このメニューで「インストール」ボタンを押すと、選択した機能が有効になります。

これで完了です。機能のアクティベーションで問題が発生した場合は、atomos.com/supportからご連絡ください。

8. Segment Pro機能操作方法

Segment Pro機能について

Atomos Segment Proは本機能は、AtomOS11専用の新ツールです。

長時間のレコーディングをユーザーが設定した容量/時間に分割して記録することができ、プロダクションワークフローの柔軟性がさらに高まります

※本機能を初めて有効化した際、デフォルトの設定では1GBで分割する設定になっております。

使用する際は予め分割したい容量や、時間の設定を行ってください。

本機能を使用しない場合はスイッチをDisable（無効）に設定してください。

Enable（有効）に設定していても収録中画面には表示されませんのでご注意ください。

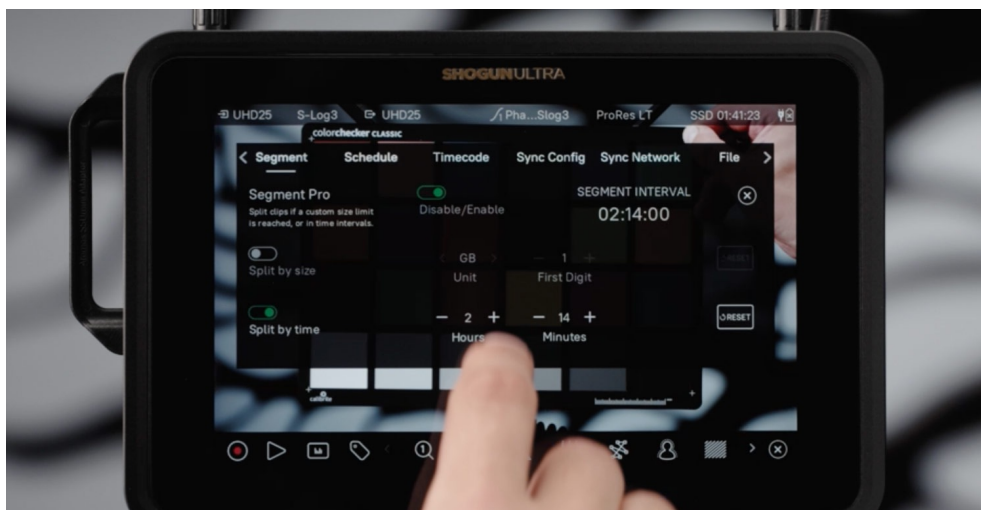
Segment Proの設定方法

- 1.本機能を有効にするには、デバイスのメインメニューにある、Segmentタブを選択します。
- 2.そこで、Enable（有効）/Disable（無効）トグルをタップして有効にします。
- 3.次に使用する分割方法を選択します。

- ・ユーザーが設定するファイルサイズに達すると分割される設定。
下記写真は、100GBの制限に達するたびに連続した収録を分割します。



- ・ユーザーが設定する時間に達すると分割される設定。
下記写真は、2時間14分ごとに連続した収録を分割します。



- 4.録音ボタンを押すと、あらかじめ選択した設定に基づいて、収録が自動的に分割されます。

Segment Pro対応 収録フォーマット

- ・ ProResRAW
- ・ ProRes
- ・ DNx
- ・ H.265

Segment Pro機能 運用上の注意点

・ Segment Proは現在、オフラインおよびC2Cの「シングル」録画シナリオでのみ使用できます。
C2Cのデュアルレコーディングモードで設定されている場合は使用できません。

・ C2Cプログレッシブ・アップロードは、SegmentProが有効な間は無効となり、
ファイルのアップロードは停止時にのみ開始されます。

・ デバイスがAtomos Cloud Studio経由でC2C用に設定されている場合、
Segmentタブのすべての機能がグレースアウトしますのでご注意ください。
Connectタブに移動してConnectボタンを押すと、Atomos Cloudから素早く切断できます。

・ SegmentProが有効な場合、ファイル名はユーザーが選択したファイル命名スキームに従いますが、
ファイル名には「Segment Suffix」が追加されます。

・ セグメントが99回収録されると、それまで設定されていたパラメーターは無視され、ユーザーが手動で
収録を停止するまで、デバイスは途切れることなく、収録を続けます。

・ 分割の最短時間は1分で、最小ファイルサイズ制限は1GBです。